

総社市立地適正化計画策定委員会（第5回） 議事要旨

1.日 時：平成30年12月21日（金） 午前10時00分～11時30分

2.場 所：総社市保健センター 2階 保健指導室

3.出席者：

【立地適正化計画策定委員】7名

【事務局】5名

【コンサルタント業者】2名

4.配布資料

会議次第，総社市立地適正化計画策定委員会（第5回）

5.協議事項

総社市立地適正化計画（案）について

6.報告事項

【参考記載】服部駅周辺まちづくり計画について

今後のスケジュール等について

7.会議の概要

前回までの協議事項をふまえ「定量的な目標値」等を修正し，作成した「総社市立地適正化計画（案）」に対する意見を徴するもの。また，「【参考記載】服部駅まちづくり計画」について，進捗等を報告し，まちづくりに関する意見を聴取するもの。

議事要旨

○協議事項について

「1.立地適正化計画（案）について」

《説明概要》

第4回までの意見を踏まえて作成した「総社市立地適正化計画（案）」の概要について、説明。

（委員）

・総社市公共交通会議が開催され、公共交通を考える前にどのようなまちづくりをするのかを考えることが先だという話があった。今回の計画案を公共交通会議で説明すること。

（委員）

・都市ビジョンがないと交通網の意味がない。
・現在運行されているデマンドタクシーは、年間7,000万円程度の費用をかけて採算が取れているか。

【事務局】

・「雪舟くん」は、H23年度から事業実施。事業費は年間約6,800万円程度。運賃収入は年間約1,200万円程度。年間約5,600万円程度で事業を行っている。H22年度まではバス補助等で公共交通を担っていた。これらを再編して、導入前の経費の範囲内で「雪舟くん」を導入している。

（委員）

・桃太郎線LRT化についてもこの計画が基本となる。
・民間により都市機能が整備されれば、公共交通も充実される。
・民間サービスの維持をどう考えていくかが大事である。また、タクシーを乗り合いできるシステム等も増えてきている。柔軟な対応が必要である。
・高齢化が進んでいるため、「雪舟くん」も車いす利用者が利用できるようにする必要がある。

【事務局】

・「雪舟くん」は、一人で乗り降りできる方が対象。今後は不自由な方を対象とした公共交通の発展も必要になると感じている。

(委員)

・持続可能で生活しやすい都市にすることが必要。コンパクトで物理的な充足だけではいけない。変化が激しい時代であるため、数年で見直しをしなければ持続可能な都市にはならない。

【事務局】

・立地適正化計画は、概ね5年毎に見直しを行う予定。社会情勢の変化に合わせて適宜改訂していきたい。

(委員)

・7月豪雨があった。財政的な視点を踏まえて安全安心なまちづくりを考える必要がある。桃太郎線 LRT 化に伴う効果を発揮するためには、沿線において新しい市街地を整備することが必要ではないか。

・浸水想定地域と居住誘導区域の重ね図をみると見直しが必要ではないか。2~5m 未満の区域も居住誘導区域に含まれている。

【事務局】

・現在、駅南地区土地区画整理事業により都市基盤、排水施設も整備され地盤高も上がっているため、区域に含めることとした。区域に含める理由を記載していくこととする。

(委員)

・浸水だけみると地盤が上がっていれば問題ないが、軟弱地盤も多い。

・今回の災害でも嵩上げや強靱化が図られているように相互にリンクしてくる。ある時点での浸水想定区域を持って居住区域の検討が必要である。

・旧真備町の庁舎が浸水した。これを教訓として安全安心のまちづくりに向けて対応する必要がある。

【事務局】

・この計画では150年に一度おきる大雨を見越した災害リスクを前提に据えている。現在、堤防強化や様々なハード整備を実施しており、災害リスクをどこまで据えるかは難しい問題であるが、十分留意していく。

(委員)

・現在、収入よりバス乗務員の不足が深刻である。そういった理由で運休になり、今後も乗務員は減少すると思われる。特に大型バスの運転手が少なくなっているが、「雪舟くん」は普通二種の免許で運行できる。

- ・車いすの乗り入れなど、今後は車両面も検討する必要がある。

(委員)

- ・「雪舟くん」について、事前予約が必要であるが、気軽に使える方策を検討する必要がある。
- ・既存の住宅団地など人の入れ替わりがあれば良いが、地域全体が高齢化しているため、買物等が困難な場所では早急な公共交通の対応が必要。

事務局まとめ

- ・「総社市立地適正化計画（案）」については、事務局案で委員了承。

○報告事項について

「1.立地適正化計画参考記載 服部駅周辺まちづくり計画について」

《説明概要》

立地適正化計画で、参考記載予定としている服部駅周辺まちづくりについて説明。

(委員)

- ・服部駅の北側についてもまちづくりを考える必要がある。
- ・学生用アパートが建築されるなど乱開発が広がっている。東総社駅よりも服部駅の方が駅の利用者が多い。受け皿としての居住地域が必要である。
- ・県立大学の学生は歳をとらない人口である。倉敷・岡山に居住しているケースが多いため、地域が自立して持続可能にしていくためには地域内で経済を回していくことを考えていかなければならない。例えば学生のアルバイト先などを確保する計画も必要。
- ・人口問題の考え方として、居住人口と関係人口が重要な都市循環の要素となる。この地域は、歴史性を活かしたまちづくりも必要と考えられる。

(委員)

- ・学生はなるべく徒歩や自転車によるまちづくりを基本に考えている。その場合、車の交通量が多くなると安全な道路が分断されるため、歩行者、自転車専用道路の整備が学生の思いとしてあった。
- ・田んぼの用水路等は、田が無くなった後も水系を街に絡め、暑い時期の親水公園として利用することも可能だと思われる。
- ・服部駅については、北側に駐車場、南側に送迎のロータリーなど配置し、人と車が交錯しない仕組みが考えられる。

(委員)

- ・大学校舎に普段から気軽に周辺の住民が入り、大学生と交流できる場所を確保することが本来あるべき姿と考える。
- ・県外などから来る学生は、最初に岡山市・倉敷市に住むが、数年経つと総社市が便利であると引っ越しをする学生も多い。

(委員)

- ・地域を地域の人が支え、自前で運営でき、経済的にも自分達の経済圏を持ちながら運営できる形を持つことが必要。そういう仕組みを作った上で都市化するのは良いと思う。全国店舗ではなく、県内の企業や事業所が出店されれば経済的にも安定し、資源・資産が確保できる。

(委員)

- ・農業の後継者がいなくなっている中で農業と福祉が連携した取り組みが進んでいる。例えば障害者が農業を行うことや福祉施設が養豚場を経営し、加工品をレストランや直販店で販売している事例もある。
- ・立地適正化計画に合わせて県立大学の学生を含めたゼミなどで総社の街中に活動する場所を同時に考えれば良いと思う。

(委員)

- ・起業できるような施設なども総社の街中で必要。

(委員)

- ・県立大学の学生のみで商売は難しいため、180号バイパスに総社市の事業所が沿道サービスを行える環境づくりも大切。

事務局まとめ

- ・今回の意見を今後の服部駅周辺のまちづくりに活かしていく。